

(有)丸真熱処理工業

2017年度環境経営活動レポート

(対象期間： 2017年 7月 1日 ~ 2018年 6月 30日)



1.環境方針	P.2
2.組織の概要	P.3
3.実施体制図及び役割・責任・権限表	P.4
4.主な環境負荷の実績	P.5 P.6 P7
5.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無	P.8
6.代表者による全体の評価と見直し	P.8

作成日：2018年9月18日

□ごあいさつ

『 環境理念 』

当社は一般金属熱処理業(鉄鋼・非鉄金属・金属製品)として、昭和47年の創業以来、お客様第一のもと、高品質の維持と短納期を目標に社員一人ひとりが責任と誇りを持ってこれまで努めてまいりました。

また、地域環境に与える影響を再認識し、社員一丸となって、安全で環境に配慮し、日々の仕事を通じてコスト管理能力・現場監理能力・お客様との交渉能力を高めるよう精進することと安全衛生活動に努めています。

(有) 丸真熱処理工業

代表取締役社長 高木 文人

環境経営方針

当社は、鉄鋼・非鉄金属・金属製品における一般金属熱処理を行う企業として、地球温暖化の緩和に向けた取り組みや様々な環境活動に全員参加で自主的・積極的に取り組み、良き企業市民として、より良い環境の創造に向けた活動を行ってまいります。

1. 電力及びガソリンによる二酸化炭素削減に努めます。
2. 工程改善により消費電力量を抑え二酸化炭素削減を図ります。
3. 省資源・廃棄物削減・リサイクルの推進します。(循環型社会の構築)
4. 節水活動により水使用量の削減に取り組めます。
5. 洗浄工程の改善により洗浄剤の削減を図ります。
6. 環境を配慮した製品の加工を推進します。
7. 会社周辺の清掃活動を行います。
8. 全職員に環境方針を周知して環境意識の向上を図ります。

制定日：2016年7月1日

改定日：2018年5月1日

代表取締役社長 高木 文人

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

(有)丸真熱処理工業
代表取締役社長 高木 文人

(2) 所在地

本 社 山梨県甲斐市玉川1578
第二工場 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居1683-5

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 常務取締役 若尾 博明 TEL : 090-8814-0040
担当者 品質管理・部長 内田 勇 TEL : 090-7249-8335

(4) 事業内容

金属熱処理
主要製品:一般金属(鋼材)

(5) 事業の規模

製品出荷額 6.1 億円(2017年7月～2018年6月)

	本社	第二工場	合計
従業員	29	3	32
延べ床面積	997.72	628	1625.72

(6) 事業年度 2017年 7月1日～2018年6月30日

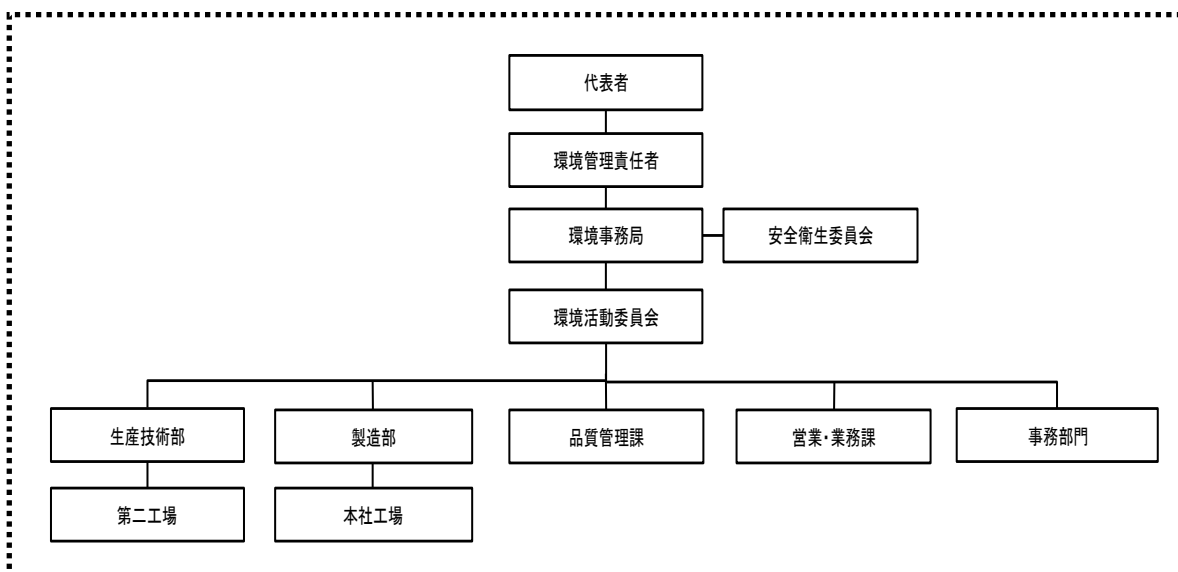
□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名 : (有)丸真熱処理工業
対象事業所 : 本社工場
第二工場

対象外 : 無し

活動 : 一般金属熱処理

□実施体制図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

工場	項目	単位	2016年 (基準年)	2017年	2018年	2019年
本社工場	二酸化炭素排出量	Kg-CO2	1,971,370	1,942,221	0	0
	廃棄物総排出量	Kg	18,057	15,098	0	0
	一般廃棄物排出量	Kg	1,125	2,370	0	0
	産業廃棄物排出量	Kg	16,932	12,728	0	0
第2工場	二酸化炭素排出量	Kg-CO2	165,595	373,676	#DIV/0!	#DIV/0!
電気小売業者 登録番号	A0269	電気事業者名 東京電力エナジーパートナー(株)	温室効果ガス排出係数 (Kg-CO2/KWh)		0.505	

【本社工場】

項目	年度	2016年 基準年	2017年		2018年 (目標)	2019年 (目標)	結果
			(目標)	(実績)			
電力による二酸化炭素削減	Kg-CO2 基準年比	1,874,362	1,855,618 99%	1,838,715 98%	1,836,875 98%	1,818,131 97%	達成
自動車燃料による二酸化炭素削減	Kg-CO2 基準年比	60,277	59,675 99%	63,461 105%	59,072 98%	58,469 97%	未達
その他燃料による二酸化炭素削減	Kg-CO2 基準年比	36,731	36,364 99%	40,046 109%	35,996 98%	35,629 97%	未達
上記、二酸化炭素排出量合計	Kg-CO2	1,971,370	1,951,657	1,942,221	1,931,943	1,912,229	98.5%

一般廃棄物の削減	Kg 基準年比	381	381 100%	558 146%	377 99%	373 98%	未達
廃油の削減	Kg 基準年比	420	420 100%	310 74%	416 99%	412 98%	達成
水道水の削減(本社工場)	m ³ 基準年比	310	307 99%	474 153%	304 98%	304 98%	未達
井戸水の削減(本社工場)	m ³ 基準年比	0	0 100%	2,471 #DIV/0!	0 99%	0 98%	-
トリクレンの使用量削減	Kg 基準年比	29,000	29,000 100%	32,480 112%	28,710 99%	28,420 98%	未達
グリーン購入の推進	%	#DIV/0!	1%	#DIV/0!	1%	1%	-

【第2工場】

電力による二酸化炭素削減(第2工場)	Kg-CO2 基準年比	165,595	163,939 99%	373,676 226%	162,283 98%	160,627 97%	未達
上記、二酸化炭素排出量合計	Kg-CO2	165,595	163,939	373,676	162,283	160,627	225.7%
水道水の削減(第2工場)	m ³ 基準年比	71	70 99%	84 118%	70 98%	69 98%	未達
井戸水の削減(第2工場)	m ³ 基準年比	0	0 100%	6,614 #DIV/0!	0 99%	0 98%	-

□主な環境負荷の実績

数値目標:○達成 ×未達成

活動:○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素削減		
数値目標	○	年末に設備1基を第二工場に移設した事と、節電活動を行って来た事で3月から月次の目標は達成出来たので、来季も継続して節電対策と生産計画の効率化を図って行って下さい。 また、LEDに対しては消防法に従って進めて行って下さい。
生産計画の効率化	○	
不要照明の消灯	○	
ノー残業デーの実施	△	
照明設備のLED化	×	
空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
自動車燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	×	3/4半期から使用量が削減出来て来たが年間では目標が達成できなかった。 営業はこの結果を基に来季は更なる改善・対策を進めて下さい。
効率の良い営業	△	
エリア別営業活動の見直し	×	
無駄なアイドリング(暖気)運転削減	○	
その他燃料による二酸化炭素削減		
数値目標	×	生産量増加や作業ミスや為、使用量が増加しているの 生産技術・製造で生産計画の見直しや作業ミス無くす対策を行って行って下さい。
作業ミスによる廃棄量の削減	△	
一般廃棄物の削減		
数値目標	×	取引先からの梱包材削減の対策を行っていけば一般ごみの削減に繋がると思うので営業は取引先と梱包材の返却を踏まえ対策を行って行って下さい。
分別の徹底	△	
5S活動の推進	○	
廃油の削減		
数値目標	○	作業ミスや設備工事の為、突発で使用量が増加したが年間では目標がクリア出来た。 しかし作業ミスでの再処理がなくなれば使用量が削減できるので生産技術・製造で作業ミス無くす対策を行って行って下さい。
作業ミスによる使用量増加の抑制	△	
水道水の削減(本社工場)		
数値目標	×	設備故障で水道水使用量が大幅に増加して目標が達成出来ていない。 生産技術は点検方法・点検周期を見直し設備故障が発生しない対策を進めて下さい。
節水意識の徹底	△	
定期的な漏水点検	△	
井戸水の削減(本社工場)		
数値目標	—	今期から井戸水の削減に向けデータ採りを行い現状の使用量の把握が出来たので来季は井戸水の削減に向けた活動を行って行ってください。
使用料の把握	○	
トリクレンの使用量削減		
数値目標	×	生産増加により使用量が増加してしまったが3/4半期は月次目標は達成出来た。 トリクレンの代替となる洗浄剤を生産技術にて早急に対応して下さい。
作業ミスによる使用量増加の抑制	△	
代替物質の検討	×	
グリーン購入の推進		
グリーン購入の検討	×	事務用品は費用対効果が望めない為、事務用品だけではなく社内全般の備品をグリーン購入出来るか検討し推進して行って下さい。

電力による二酸化炭素削減（第2工場）		
数値目標	×	工業団地内の変電システムの改修工事により使用電力量が正確になり、使用量が増えた事と、年末に1基設備を導入したので使用量が削減で液なかった。来季は今期の使用量を基準として電気使用量削減に向けた対策を生産技術で進めて下さい。
生産計画の効率化	○	
不要照明の消灯	○	
ノー残業デーの実施	×	
照明設備のLED化	×	
空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	○	

水道水の削減（第2工場）		
数値目標	×	設備故障で水道水使用量が大幅に増加して目標が達成出来ていない。 生産技術は点検方法・点検周期を見直し設備故障が発生しない対策を進めて下さい。
節水意識の徹底	△	
定期的な漏水点検	×	

井戸水の削減（第2工場）		
数値目標	—	今期から井戸水の削減に向けデータ採りを行い現状の使用量の把握が出来たので来季は井戸水の削減に向けた活動を行って行ってください。
使用料の把握	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属ガス、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音・振動規制法	空圧機、送風機
消防法（危険物）	シンナーの保管
フロン排出抑制法	業務用空調機、冷凍機
消防法	危険物の保管
顧客要求事項	化学物質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等で騒音・振動規制法、フロン排出抑制法の申請が出来ていなかったため、今期中に申請を完了させます。
 また他の法規制については随時調査を行い、追記・遵守していきます。
 なお、違反、訴訟等は過去3年間（あるいはこれまで）ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

環境活動の取組みは概ね定着しているものの、目標の達成・計画の実施・法規の遵守状況を確認するとまだ十分とは言えない。特に電力使用量や燃料使用量などの環境目標が未達成であり、その取組みに課題を残しています。

また、環境リスクが大きい油や薬品の敷地外流出の防止や、法規遵守についての対象区分は必ず申請し今後も継続的に取り組んでほしい。

社内で取り組んでいる安全衛生活動を通じて『環境にやさしい職場、社員がルールを守る・守らせる職場』の構築を継続して行っていく。

その他のテーマ活動についても改善の余地が多々残っているので、今後社員が一丸となって改善活動に取り組んで環境問題に貢献出来ることを願う。

□環境活動の紹介

美化活動

